

各位

全3ページ  
登録速報(2020-009)  
2019年11月 6日  
クミアイ化学工業株式会社  
企画普及部普及課

## 登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2019年11月 6日

## 記

### 1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第21389号

名称：テラガードL250グラム

### 2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項のうち以下を変更し、別紙のとおりとする。

- ・作物名「移植水稻」の「ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数」を「2回以内」から「3回以内」に変更する。
- ・適用土壌、適用地帯を廃止する。
- ・作物名「移植水稻」の適用雑草名「水田一年生雑草及びマツハイ、ホトメ、ウリカ、ミスガヤツリ、ヒルシロ、セリ、アミドロ・藻類による表層はく離(北陸、近畿・中国・四国、九州)」を「一年生雑草及びマツハイ、ホトメ、ウリカ、ミスガヤツリ、ヒルシロ、セリ、アミドロ・藻類による表層はく離」に変更する。

### 3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容(農薬登録申請書第8項5)～8)を以下のとおり変更し、別紙のとおりとする。

- 5) 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 6)、7)、8)の文中「避け」を「さけ」に変更する。

別紙

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日～ ノビエ 2.5 葉期 但し、 移植後 30 日まで	250g/10a	1 回	湛水散布又は 湛水周縁散布

カエンストールを 含む農薬の総使用回数	ベンシルフロンメチルを 含む農薬の総使用回数	ベンゾピシロンを 含む農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	3 回以内

8. 使用上の注意事項

- 1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- 2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの 2.5 葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにすること。  
ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは 2 葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 3) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 4) 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深 5～6 cm）にして水の出入りを止めること。
- 5) 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後少なくとも 3～4 日間は通常の湛水状態（水深 3～5 cm）を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 6) 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため、周縁部散布を さげ、本田内で水田全面に散布すること。
- 7) 以下のような条件下では薬害の生じるおそれがあるので使用を さける こと。
  - ①砂質土壌の水田、漏水田（減水深 2 cm/日以上）。
  - ②軟弱苗を移植した水田。

③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。

- 8) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下するおそれがあるので使用はさけること。
- 9) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 10) 本剤は吸湿性があるので、ぬれた手で作業したり、降雨でぬれることがないように注意すること。また、開封後は早めに使用すること。
- 11) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないこと。
- 12) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 13) 本剤は移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- 14) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 15) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上